母子分離中における父親へのアプローチ

－母親の不安が最小限にできるような父親への対応を考える－

10階東　周産期疾病室　　○関口淳子　高橋　藤　水島　井沢

Ⅰ．はじめに

出産後の早期の接触が、その後の母子間の愛着形成に重要であると提唱され、すでに10年が経過し両親の入室面会はルチーン化されている。最近では子どもがＮＩＣＵに入院したという事態を乗り越え、両親の愛着形成が円滑にいくような援助方法が見直されている。

当病棟でも３年前よりできるだけ家族との対応を記録（ファミリーシート）し、よりよい親子関係を築くことができるように努めてきた。しかし、母親の面会までには数日を要することが多く、その間の母親への心理的援助について統一した見解がなかった。実際に、初めて面会した時に母親が戸惑うことがあり、それまでに母親が児の情報をできるだけ知り、不安を最小限にするための援助が必要であることに気づいた。この間は看護婦が母親との接触をもてず、父親が橋渡し役となって情報を母親に伝えることになる。

そこで今回、父親がどのような役割りをしたか、また母親がどのような心理状態であったかを調査し検討をした。その結果、父親を通してのアプローチ方法について、当病棟での方向性を見出すことができたので報告する。

Ⅱ．研究内容

１．調査目的：児と分離中の母親の心理的変化を知り、父親へのアプローチ方法を知る。

２．対　　象：平成２年４月より平成３年５月までに、生後０日から１日に入院し、かつ10日以上入院した児の両親。

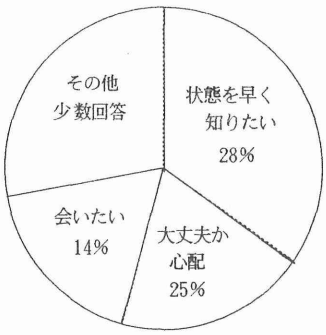
３．方　　法：対象となる家族にアンケートを配布（選択及び記述式回答）回収率、110 組中64組（58.2%）。回収された家族についてのファミリーシートの検討。

Ⅲ．結果

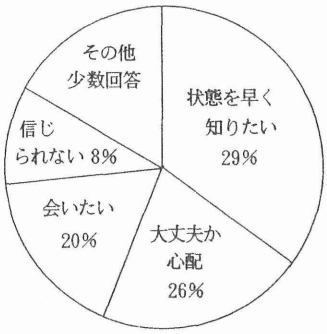
(1)母親について

図１、２より、母親は入院時において、児が極端な生命危機に至っていなくても、児の状態がはっきりしていないことへの不安が多数を占め、父親から児の状態をきくまでこの不安は持続している。図３―③より、父親からの情報を受けた後は、児の状態が不明という不安はある程度軽減されてくる。同時に、正常に出産できず申しわけないという自責感が出現してくる。図４―①より、初回面会時では、保育器に収容され点滴や胃チューブ、モニター等が装着されている児を見て、かわいそうと思う母親が多いが、それと同時に自分の視覚で児を確認できて「嬉しい」「かわいそう」「不安が和らぐ」というようなプラスイメージも多くなっている。

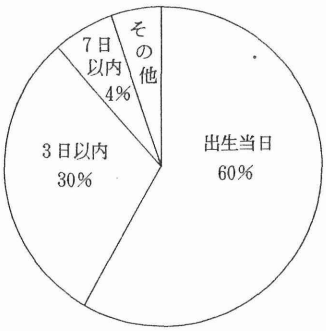
＜母親へのアンケート結果＞



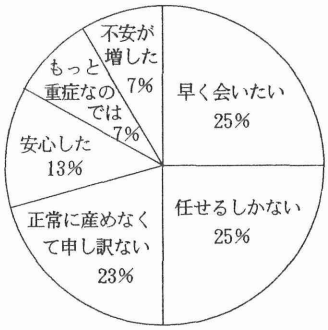
1.赤ちゃんがNICUへ送られると知ってどのようなことを考えましたか。



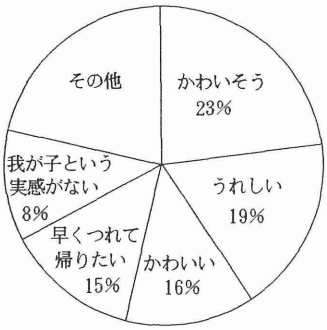
2.お父さまから赤ちゃんの状態を聞くまでどのようなことを考えましたか。



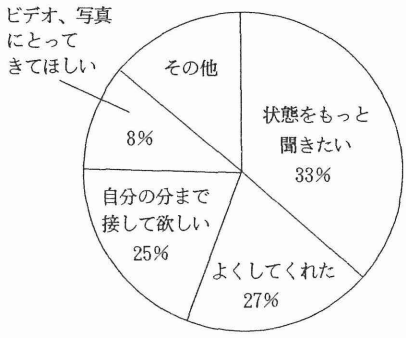
3-①　お父さまより赤ちゃんの状態をいつ聞きましたか。



3-③　お父さまより赤ちゃんの状態を聞いた時の気持ちはいかがでしたか



4-① 赤ちゃんと初めての面会時
気持ちはいかがでしたか

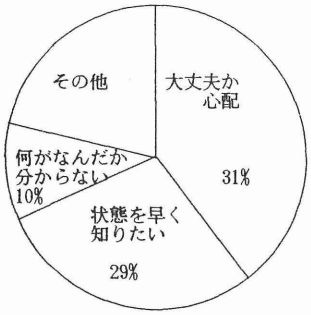


7.赤ちゃんに会うまで、お父さまには
どのようなことを期待していましたか。

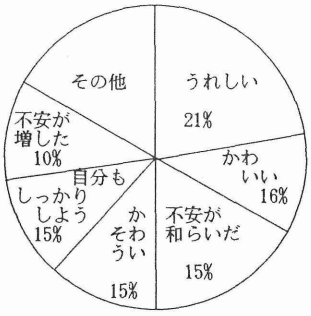
(2)父親について

図4—①③より、父親は医師より病状をきいて、軽症群（軽度の呼吸障害のみ、あるいは低出生体重のみの児）では「ありのまま伝えよう」と思った父親が73%であり、回答したほぼ全員が実際にありのまま伝えていた。一方、重症及び奇形群（超未熟児、重症仮死児、脳障害児、先天性奇形児、染色体異常児）では、「ありのまま伝えよう」と思った父親は50%いたが、実際にはありのまま伝えた父親は30%しかいなかった。重症及び奇形群の父親の65%は重症感のないように伝えていた。なかには全く伝えなかった父親もいた。

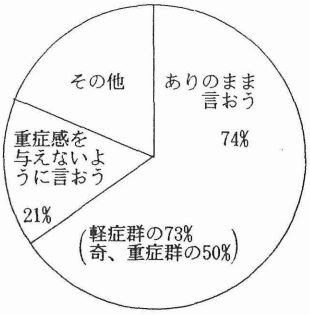
＜父親へのアンケート結果＞



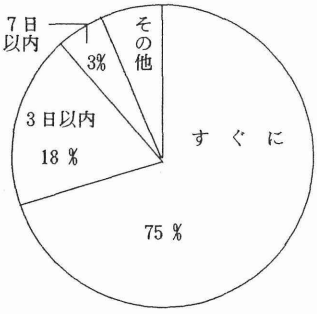
1. 赤ちゃんがNICUへ送られると知って
どのようなことを考えましたか



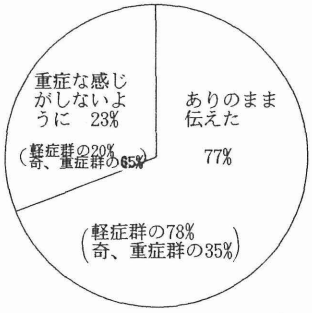
2. 初めて赤ちゃんを見てどう思い
ましたか



3—① 医師より赤ちゃんの状態を聞いて
どのようにお母さまに伝えようと
思われましたか



4-① 赤ちゃんの状態をいつお母さま
につたえましたか



Ⅳ．分析および考察

今回のアンケートから、児に面会するまでは、様々な不安を抱いていて、児の状態を細かくききたいという母親が数多くいた。従って、初回面会までに母親に対して何らかの精神的な援助が必要になる。

ダニエルらは[1]「子どもに何か問題があると告げられてから、実際に子どもを見るまで待たされた時間が最も耐えがたく、母親も父親も、実際に自分の子どもを見た時にやっと安心するものなのである。」と述べている。

しかし、他院で出産し当病棟に搬送された児の場合、1週間から2週間の母子分離は仕方の無い事である。

母親に児をイメージできる様な情報の伝達は、やはり父親を頼るしかない。その父親が児の状態を理解でき、母親に伝達することは、新しく子どもを持った両親の第一の課題である。ソルニットらは、[2]「正常妊娠の経過中に母親と父親は、自分たちの子どもの姿を心に想像する。どれほど具体的に想像するかには差があるが、親は子どもの性別、外見、皮膚の色などを心に描く。親として最初になすべき課題の一つは、この理想化された子どものイメージと現実の子どもの実際の姿との間の相違を埋めることである。」と述べている。このソルニットの唱える課題（以後「課題」と称する）を達成するために、父親は母親との橋渡し役となり重要な存在になる。従って看護婦は、父親が母親に児の状態を詳細につたえることができるように働きかけていく必要がある。

ところが、今回のアンケート結果では、次のような相反する傾向があることがわかった。軽症群の父親と重症及び奇形群の父親とでは、児の入院時における心理的状態が異なっている。つまり、重症及び奇形群と軽症群とでは、父親の不安度が違うのである。

軽症群の父親は比較的安心していたので、児のありのままの状態を母親に伝えられたのだろう。このような場合は、母親のニードを満たすように父親に働きかければ「課題」は達成されると思われる。

その具体的な援助方法としては、母親の視覚に最も効果的に訴えられる写真やビデオ撮影を勧めることである。カメラやビデオの持ち込みは感染予防上では問題とされることもあるが、わかりやすく母親が一番安心できる方法だと考えられる。父親が撮影し母親に見せる場合には、チューブやモニターが装置されて痛々しい、かわいそうという気持ちを和らげるために、モニターの電極は皮膚に接触しているだけで児は痛くないこと、点滴、胃チューブの必要性等を説明してもらうように伝えておく。

一方、重症及び奇形群の父親に関しては、不安が大きくかなり動揺していたと思われる。そのため、児の状態をありのまま母親に伝えられなかったのか、或いは母親の体調を気づかい話せなかったのかもしれないと考える。このような場合には、軽症群の父親に接するような方法だけでは「課題」は達成できないということが今回の調査結果からわかった。従って、父親だけに橋渡し役をまかせてしまうと不安はますます増大し、悪い結果を招きかねない。

実際、今回のアンケートにおいて、重症及び奇形群の父親の中に“医師から母親に状態をはなしてほしかった”という意見があった。従って、父親の不安の大きさと、事実をありのまま話せない状況を理解し、時には医療者が橋渡し役の一部を荷い、医師より状態を説明することも必要となってくる。また反対に、“自分から言うので医療者は黙っていてほしい”という意見もあった。このような場合、父親の様子を見守り、困った時はいつでも父親の役割に参加する意志があることを伝えておけば、不安は軽減できるのではないかと思われる。いずれにせよ、何らかの形で父親の役割を個々の症例に見合った対処方法でサポートしていかなければならない。当病棟では、プライマリ・ナーシングをとり入れており、その点も考慮して具体的な援助方法を今後の課題として考えていきたい。

軽症群や重症及び奇形群も、いずれの症例にせよ継続的に援助していかなければならない。そこで必要となってくるのは記録である。過去のファミリーシートを見返してみると、残念ながら、父親の理解度や母親へどのように伝えているか等の情報が得られていないものが多かった。これは、両親のニードを把握しようとする看護婦の認識が薄かったためと考えられる。そして、このようなことは私達の反省すべき点であり、これからは看護者間の情報の浸透及び言動の一致のためにも、ファミリーシートの充実を計っていきたい。

母親の初回面会では、多様に変化する心理状態を理解し、ニードに適したアプローチを、30分と限られた面会時間を有意義なものとなるように働きかけていきたい。それが、後の母子間の愛着形成につながっていくと信じている。

Ⅴ．おわりに

今回の調査研究により、母親が初回面会するまでの両親の心理的変化を知ることができた。そしてこの心理的変化から、父親を通してのアプローチ方法を確立

するための方向性を見出すことができた。この結果と方向性を、プライマリー・ナーシングを中心とした看護実践の場に役立てていきたい。同時に、よりよい新生児看護とは何かを考え続け努力していきたい。

引用文献

1)ＮＡＮＣＹ．Ａ．ＩＲＶＩＮ；「先天性の奇形を持つ子どもの両親のケア」Ｐ227
「親と子のきずな」クラウス・ケネル著（竹内、柏木、横尾訳）医学書院 1985

2)同上　Ｐ226

参考文献

1．加藤忠明：「母子相互作用の成立」「発達の心理学と医学」Ⅰ(3)；313-322,1990

2．小嶋謙四郎：「Bowlby のアタッチメント理論」「発達の心理学と医学」Ⅰ(3)；413-418,1990

3．酒井喜久枝他：「未熟児を出産した母親の心理」母性看護、15（7）、1984

お母様への質問

お名前（　　）

1．赤ちゃんがＮＩＣＵに送られることを知った時、まずどのようなことを考えましたか（解答は３つまで）
1)大丈夫だろうか、心配
2)死なないで、命だけは助かって
3)信じられない
4)ＮＩＣＵに任せるなら安心、大丈夫
5)何がなんだかわからなかった
6)とにかく会いたい
7)正常に生まれなかったのが悔しい
8)どういう状態なのか早くし知りたい
9)その他（　　）

2．お父さまから赤ちゃんの状態を聞くまでどのようなことを考えていましたか（解答は３つまで）
1)大丈夫だろうか、心配
2)死なないで、命だけは助かって
3)信じられない
4)ＮＩＣＵに任せるなら安心、大丈夫
5)何がなんだかわからなかった
6)とにかく会いたい
7)正常に生まれなかったのが悔しい
8)どういう状態なのか早くし知りたい
9)その他（　　）

3．赤ちゃんの状態を初めて聞いた時のことをお尋ねします
①それはいつですか
1)出生当日　2)３日目以内
3)７日目以内　4)その他
②どのように説明されましたか

③その時の気持ちはいかがでしたか
（解答は３つまで）
1)安心した
2)早く会いたい
3)病院に任せるしかない
4)本当はもっと重症ではないかと疑った
5)正常に生んであげらなくて申し訳ない
6)不安が増した
7)その他（　　）

4．赤ちゃんとの初めての面会時
①その時気持ちはいかがでしたか
（解答は３つまで）
1)うれしい　2)かわいい
3)かわいそう　4)不安が増した
5)不安が和らいだ　6)育児への意欲がわいた
7)早く連れて帰りたい　8)本当生きているのか？
9)怖い　10)わが子だという実感がない
11)その他（　　）

②想像していた赤ちゃんより
1)小さい　2)大きい
3)想像どうり　4)状態良さそう
5)状態悪そう
③赤ちゃんに触りましたか
1)自分から触った
2)勧められて触った
3)触らなかった
④③で3)と答えた人はなぜですか

⑤面会時看護婦と接してどのような印象を受けましたか
1)事務的　2)専門用語が多い　3)親切
4)その他（　　）
⑥赤ちゃんに関する看護婦の説明で何か不足な点はありましたか
1)あった　2)特になかった
⑦⑥で1)と答えた人はどの様な事ですか
⑧看護婦のどのような言葉が印象的でし

5．医師から赤ちゃんの状態を聞いた時
①お父さまから聞いていた赤ちゃんの状態とは違うと感じる事がありましたか
1)あった　2)特になかった
②①で1)と答えた人はどの様な事ですか
③もしも重症である場合お父さんにはどのように説明して欲しいですか
1)ありのままはっきり言って欲しい
2)ある程度安心感を与えるような説明をして欲しい
3)嘘をついてでもその時は安心させて欲しい
4)その他（　　）
④それは何故ですか

6．いつ頃から育児への意欲がわいてきましたか
（解答は１つ）
1)妊娠中～　2)～出産直後
3)～赤ちゃんの状態を聞いた時
4)～初めて面会したとき
5)～初めて抱いたとき
6)～面会（　　）かいめころ
7)育児指導をうけたとき
8)その他（　　）

7．赤ちゃんに会うまでの間お父さまにはどのような事を期待していましたか

お父様への質問

お名前（　　）

1．赤ちゃんがＮＩＣＵに送られることを知った時、まずどのようなことを考えましたか（解答は３つまで）
1)大丈夫だろうか、心配
2)死なないで、命だけは助かって
3)信じられない
4)ＮＩＣＵに任せるなら安心、大丈夫
5)何がなんだかわからなかった
6)とにかく会いたい
7)正常に生まれなかったのが悔しい
8)どういう状態なのか早くし知りたい
9)その他（　　）

2．初めて赤ちゃんを見てどう思いましたか
（解答は３つまで）
1)うれしい
2)かわいい
3)不安が増した
4)不安が和らいだ
5)かわいそう
6)この子もがんばっているから自分もしっかりしなくては
7)その他（　　）

3．初めて医師から赤ちゃんの状態を聞いて
①どのようにお母さまに伝えようと思われましたか
（解答は１つ）
1)ありのままを言おう
2)重症な感じがしないように言おう
3)混乱して思いつかなかった
4)その他（　　）
②それはどうしてですか

4．赤ちゃんの状態について
①お母さまにいつ伝えましたか（解答は１つ）
1)すぐに　　2)～３日目
3)～７日目　　4)その他
5)伝えなかった
②①で1)と答えた人はなぜですか

③実際にどのように伝えましたか
1)ありのままを伝えた
2)重症な感じがしないように伝えた
3)その他（　　）
④それは何故ですか（　　）
⑤医師の説明を何％くらい伝えたと思いますか　（　　）％

5．赤ちゃんとの面会時
①看護婦と接してどの様な印象を受けましたか
（解答は１つ）
1)事務的　　2)専門語が多い　　3)親切
4)その他（
②赤ちゃんに関する看護婦の説明で何か不足な点がありましたか
1)あった　　2)特になかった　　3)わからなかった
③②で1)と答えた人はどの様な点ですか

④看護婦のどのうな言葉が印象的でしたか

6．お母さまが初めて赤ちゃんに面会するまでの間、どの様に対応していましたか

7．ふり返ってみて入院初期において、お母さまに対してどのように接していけばよかったと思われますか

御協力ありがとうございました。